



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	朝鮮解放直後の社会運動：慶尚南道馬山地域を中心にして
Author(s)	パク, チョルギユ; 馬淵, 貞利
Citation	東京学芸大学紀要 第3部門 社会科学, 55: 1-20
Issue Date	2004-01-30
URL	http://hdl.handle.net/2309/2791
Publisher	東京学芸大学紀要出版委員会
Rights	

朝鮮解放直後の社会運動

——慶尚南道馬山地域を中心にして*——

パクチョルギユ 著・馬淵貞利 訳**

歴史学

(2003年 8月29日受理)

[訳者序文]

今なお東アジアにおける国際的重要課題の一つは朝鮮半島の統一問題である。周知のように、朝鮮分断の直接的契機は、第二次世界大戦の終結の仕方とそれに関連する連合国の対応にあったと言っても過言ではない。しかし、分断要因を総合的に分析しようとするれば、何よりもまず「解放後3年史」といわれる時代(1945～1948)の朝鮮内部のさまざまな社会階層の動きを見なければならない。というのは、朝鮮解放と同時にもたらされた朝鮮分割占領という事態に対して具体的対応を迫られた米ソ両大国は、当初から朝鮮を永続的に分断する意図を持っていたわけではなかったからである。むしろ、解放直後の朝鮮社会の中にこそ、占領者である米ソ両国の冷戦政策を方向づけ、新たな政治的選択を運命づける本質的問題が潜んでいたように思われる。こうした問題の解明は、当該時期の朝鮮各地域における社会階層の具体的な動きを追求することによって、はじめて可能になる。ここに訳出するパクチョルギユ氏の論考は、そうした研究の流れの中に位置づけることのできる韓国現代史研究初期の労作の一つである。1990年代における韓国の若手研究者の研究姿勢を知る上でも、この論考は注目に値するといえよう。

1. はじめに

馬山は昔から「馬浦」という名で知られてきた天恵の良港である。開港に先立って、帝国主義諸国が馬山の滋福里および月影里一帯を密かに買収したが、それ

はここを確保して軍事・通商の足場にしようとしたためである。馬山が開港場に指定され、ここに外国人居留地が置かれたのは光武2年(1899年)5月1日のことである。ただ、旧馬山港は水深が浅いことに加えて水揚場が狭かったために一時閉鎖されたこともあった。その後、日本帝国主義の支配を受けるようになってから、港民15名が総督府の許可を取って月浦海水浴場一帯の港湾埋築を試みたが、作業は途中で挫折し、結局総督府の管轄下に移されて1935年に竣工した¹⁾。また、総督府は1943年10月1日に隣接面の一部を馬山府に編入し、馬山の行政区域を拡張した。こうして馬山は日本の大陸侵略政策の犠牲に供され、本来の港都としての経済的機能を失って、日本の軍需物資の中継輸送基地にされてしまった²⁾。

一方、植民地期には、馬山地方はいち早く朝鮮国権回復団馬山支部が結成されたところであり、この組織を中心にして3・1運動が展開されたことでも知られている。その後馬山では、馬山倶楽部をはじめとする労働夜学運動など、各界各層の多様な民族解放運動が展開された³⁾。

解放後に占領軍として入ってきた米軍はこの地域を重視した。隣接する鎮海に日本の海軍基地があったこともあって、米軍はここを釜山に劣らぬ戦略的要衝と見なしたのである⁴⁾。そして、この地域の占領政策を徹底的に貫徹しようとした米軍政は、いわば必然的にこの地域における親米右翼勢力の急速な養成を政策の基調とするようになった。

以上のことを踏まえて、以下第2章では解放直後の馬山の社会状況を一瞥する。次に第3章で、馬山建国準備委員会(以下「建準」という)の組織と活動、建

* Korean Social Movements in Liberation Era 原題は「解放直後馬山地域の社会運動」(歴史学研究所『歴史研究』第5号『韓国近現代社会変革運動』1997. 10, 図書出版ブルピッ)

** 東京学芸大学(184-8501 小金井市貫井北町4-1-1)

準の人民委員会（以下「人委」という）と「韓民会」への分化、各種の大衆組織の建設と活動を考察し、併せて米軍政がこの地域で実施した治安・人事政策を検討する。つまり、この章では解放直後の馬山で展開された新国家建設のためのさまざまな努力に対して米軍政がどのように対応したのかを確認しようと思う。さらに第4章では、モスクワ三相会議決定と第一次米ソ共同委員会をめぐる激動の渦中で、民主主義民族戦線（以下「民戦」という）勢力が行なった宣伝・煽動活動と、これに対して米軍政が行った全面的な弾圧の実態を検討する。そして最後に、解放後一年の総決算となった馬山の「10月抗争」の内容を探る。10月抗争を経て、臨時民主政府の樹立なくしては最小限の民主的権利どころか生存権さえも保障されないと判断した馬山の民衆は、その闘争の性格を次第に政治闘争へと転換していくことになるが、本稿では紙面の関係上「10月抗争」までの検討に止めることにする。

2. 解放直後馬山の社会状況

解放直後には、朝鮮半島南部の臨海諸都市ではほぼ共通して見られた諸現象が馬山でも見られた。すなわち、治安の不在、帰還同胞の帰国、撤退する日本人の集結、それに伴う食糧および住居の不足、失業者の累積、インフレによる物価の高騰等、がそれである。

馬山の人口は解放直後に6万余名を数えたが、このうちの10%にあたる6,000余名が日本人であった。同市の人口は、1946年5月には8万2千余名に増え⁵⁾、短期間の急激な人口増加が食糧不足を招来した。食糧事情が悪化した主因は前年度の凶作にあったが、この年の春麦の不作もこれに追い打ちをかけた。米軍政庁は厳しい食糧難を解消するための当座の方策として、「米穀小売最高価格」を設定して米価の高騰に歯止めをかける一方、馬山を含む全国主要都市で一人当たり一日2合半（2合5勺）の米を配給することを決定した⁶⁾。全般的に劣悪な当時の経済事情の下では、この程度の配給では各家庭の食糧不足を解決することはできなかった。あまつさえ、市外から流入してくる人々や帰国したばかりの帰還同胞には、米の配給すら実施できず、彼らの間では「草根木皮」とか「草根山菜」という言葉が現実のものとなった。

ところで、8月15日の一日間だけで朝鮮銀行から流れ出た金は1億3,100万円であった。これはこの時点における朝鮮銀行券の全発行高の2.7%にあたる。さらに朝鮮銀行券の発行高は8月16日から31日の2週間の間に無慮31億5,000万円に上った。これは総督府の

関係者と軍人の俸給、退職金、帰国準備金や政府関係契約解消に伴う損害賠償などを全て一時払で支出したためであった。その結果、激しいインフレと天井知らずの物価上昇を招くことになった。1936年を100とする卸売物価指数は1945年6月に272であったが、同年8月中には1,752に跳ね上がり、9月には2,047、12月には4,359になった。半年の間に実に16倍に急騰したのである⁷⁾。

食糧不足や貨幣の乱発と並んで、解放直後の激動期を象徴する問題は、解放前の日本人財産すなわち「敵産」の処理問題であった。この頃、空家となった旧日本人住居に勝手に自分の表札を掛けてもぐり込み、そこに居座れば所有権が認められると考える向きさえあった。こうして、「敵産」をめぐる紛争や訴訟とそれに起因する悲喜劇は、まさに名状し難いものとなった⁸⁾。特に大きな工場の場合、その管理権がそれまでの朝鮮人従業員たちに委ねられたが、あまりにも大きな利権であったために、その「縁故権」等の認定をめぐって幾多のゴタゴタが生じた⁹⁾。当時、「敵産」に対する「縁故権」を捏造する行為が横行し、日本人が帰国時に処分していったように書類を偽造したり、8月15日付けで自分のものとして登記する人まで出現した。中でも馬山フィオン洞500番地一帯の日本軍用地6万坪をめぐる所有権抗争は甚だしかった。このような現象は朝鮮南部全域で発生したが、これに対して米軍政庁は1945年9月25日に「38度線以南で日本に所属していた公私有財産の移転は、その形態と内容の如何を問わず、すべて所有権を軍政庁が接収する」と発表し、さらに「1945年8月13日以後に日本人と取引したすべての売買は無効」という軍政庁命令を出した¹⁰⁾。日本人の財産は、米軍政庁が継承し、「日本人財産管理署」で管理することにしたのである。

馬山地方の日本人たちは、他の主要都市の場合と同じく「世話人会」を組織した。「世話人会」は日本人たちの保護と送還業務を担当する全国的な民間組織であった。この組織は米軍政の承認を受け、その後かなりの期間にわたって活動した。日本軍の送還業務は日本軍馬山連絡部が処理した。解放時に馬山府尹であった塚本太郎ら大部分の馬山居住日本人官吏たちは、米軍政庁の周旋によって帰国した。帰国しようとする日本人たちは、8月25日から百トン級以上の船舶の運行が禁止されたために足止めされたが、9月1日から連絡船が再就航すると、これを利用して帰還した¹¹⁾。

日本人たちは、帰国する前に軍需工場や倉庫に山積してあった酒類・醤油・練綿・紡織物などの統制物資の大部分をこっそり抜き出し、売却処分した。日本人

個人の動産はいうまでもなく、如才ない日本人は不動産さえ一部処分することもあった。このような事態は日本人の集住域であった新馬山で続発した。要するに、日本人たちは無一物で立ち去ったのではなく、処分できるものはみんな売り払って立ち去ったのである。このような場面を目の当たりにした馬山商工業者のキムチュンヨン¹²⁾・ソンソンスたちは、馬山経済を復興するために、1945年9月5日、日本人が牛耳っていた「慶南商工経済会馬山支部」を接收して「馬山商工経済会」に改編した。そして、同年10月5日にこの会の創立総会を開き、1,348名（法人48、個人1,303）の加入会員の中から57名の委員を選出した¹³⁾。

他方、日本など海外に在住していた同胞たちは解放後続々と帰国した。馬山にも2万余名の帰還同胞が帰ってきた¹⁴⁾。しかし、帰還同胞たちは食物や寝場所を得ることすら覚束ない有様であった。彼らの多くは馬山を経由してその故郷へ帰って行ったが、一部の者たちはそのまま馬山に居残った。中には日本の金を所持している者もあったが、それで食物を買うことはできなかった¹⁵⁾。馬山の建準はこうした人々を救護するために多様な活動を展開した。なかでも注目すべきは馬山地域の漢方医たちで、彼らは建準と協力し合って帰還同胞たちに無料治療券を発行するなどして診療にあたった¹⁶⁾。

帰還同胞たちは、最初は空いている日本人家屋などに無断で住み込んだが、その払下げを受ける金がないために忽ち締め出しをくってしまった。紆余曲折を経て彼らの居場所は次第に定まっていたが、彼らの集団居住地となったところは、日本軍の幕舎と軍需品備蓄用倉庫があった新浦洞1街10番地、当時空地になっていた中央洞2街1番地、日本騎馬隊の厩舎があったフィウォン洞500番地などであった。このような帰還同胞たちは「憂患同胞」と呼ばれ、彼らの存在そのものが当時の深刻な社会問題であった¹⁷⁾。

上記の外にこの時期特有の教育問題があった。久しく日本語で教育してきたものを一朝にしてハンゲルで教育しようとしても、教材や教師がまともに準備できるはずがなかった¹⁸⁾。これはほとんど全国的な現象であったが、馬山のような沿岸部の都市では、教材・教師不足が特に深刻であった。

3. 新国家建設の基盤造成のための社会運動

1) 建国準備委員会の組織と活動

解放の消息に接した馬山の有力者たちは、8月16日の晩、植民地期に生まれた親疎関係に基づいて自然に

集まりを持った。ここで直接確認することはできないが、他の地域でも似通った動きがあった可能性はきわめて高い。彼らの集まりは、大きく3派に分けることができる。すなわち、無政府主義的傾向を持った人士たちであるキムヒョンユン¹⁹⁾・ソンムンギ・チョビョンギ・イーイルレ・キムチュホン・イーウォンセ・キムチャンガプ・チョンホンヨル・ユソッキョン²⁰⁾・チョンミョンボクたちは中城洞のキムチャンガプの家で、植民地期の馬山府会議員を中心とした人士たちであるミンヨンハク・アンチャンス・ソギホン・ソンヒョンオプ・イーユマンたちは東城洞のミンヨンハクの家で²¹⁾、社会主義系列の人士たちであるキムミョンギョ・キムヨンチャン・キムヒョンユン²²⁾・キムジョンヨル・キムジョンシン・パクサムジョたちは午東洞のキムヒョンユンの家で、それぞれ会合を持ったのである²³⁾。

これら3派の代表たちは合同の集まりを持とうとしたが、それぞれの内部に意見の食い違いがあつて決裂した。しかし、解放の感激もさることながら、一日も早く無政府状態を正さなければならないという使命感が3派を再び会同させた。カンテホ・キムヒョンジンを中心とした70余名が馬山食堂（現・韓一銀行馬山支店）の2階で会合し、「解放祝賀市民大会準備委員」を選任することで合意した。彼ら準備委員たちは、ただちに建準を結成することを決定した。そうして彼らは8月17日、共楽館²⁴⁾で「朝鮮建国準備委員会馬山府委員会結成大会」を開催し、次のような部署を確定して、その幹部を選出した²⁵⁾。

委員 長：ミョンドソク
副委員 長：ソンムンギ
総務部長：チョビョンギ
組織部長：チェミョンチュル
宣伝部長：イーイルレ
財務部長：ソンヒョンオプ
産業部長：カンテホ
治安隊長：パクサムジョ
救護部長：ソンムンギ
書 記：キムジョンヨル

〈表1〉によれば、馬山の建準は、建準について一般的に知られている事実とは違って、植民地期の親日派、無政府主義者、建国同盟と3・1運動参加者、社会主義系列の人士と一緒に参画している。このような事実は、当初の建準幹部の人選が3派の人々を折衷してなされたことを窺わせる。幹部構成を見れば、委員

〈表1〉馬山建国準備委員会幹部の主要経歴²⁶⁾

姓 名	主 要 経 歴	
	植 民 地 期	解 放 後
ミョンドソク	1885～1954. 1910年代労働夜学教師, 3・1運動参加, 旧馬山倶楽部教風部長, 馬山漁市場民組合総務, 原東貿易会社重役, 民立大学発起人, 馬山物産奨励会幹部, 学校評議員, 29年新幹会馬山支会委員長, 創氏改名拒否, 建国同盟.	建準委員長, 45年12月初慶南軍政庁馬山顧問, 46年民革党馬山責任者.
ソンムンギ	1896年馬山生まれ, 俗称ソン監察家と呼ばれる富豪の息子. 日本大学高等師範部2年修了. チャンシン学教員, 20年馬山倶楽部書記, 勉勵青年会幹部, 22年新人会, 23年馬山労働同友会, 23年彗星会, 『朝鮮』・『中外』支局長, 無政府主義に同調, 29年新幹会馬山支会監査委員.	馬山建準救護部長, 建準脱退後韓民会結成, 独促協議会馬山支部委員長, 独促国民会慶南道支部副支部長, 『東亜』支局長, 過渡立法議院慶南道議員(第3区), 大韓毛紡績協議会長, 制憲国会出馬(無所属・落選), 慶南道議員, 自由馬山市党監察委員長.
チョビョンギ	1907年咸陽出生. 慶南師範卒, 昌原普通学校在職, 『青年に告ぐ(クロボトキン)』を出版しようとして検挙され, 執行猶予3年刑. 昌原で黒友連盟組織のかどで逮捕, 無政府主義に同調, 『朝鮮』・『東亜』記者	建準馬山支部総務部長, 建準から脱退して韓民会総務部長, 慶南独促関連者.
チェミヨンチュル	1909年馬山生まれ. チェミヨンジュル, チェガン. 普通学校卒, 魚市場店員, 馬山青年同盟執行委員(29年), 馬山自由労働組合検査委員, 馬山労働連盟教育部幹事, 新幹会馬山支会庶務部員(30年3月), 30年8月赤色労組関係で検挙され懲役, 10月出獄後チャンギュギョンと共に活動, 34年検挙・懲役3年を宣告され, 出獄後密陽クァンサンで解放を迎える.	馬山建準組織部長, 共産党馬山市責任者, 南労党釜山市責任者(46年), 南労党慶南道責任者(47年), 朝鮮機械工作所共同代表(47年), 南労党中央党で活動していて越北.
イーイルレ	ヨンジョン出身. クリスチャン, 『山兎』作曲.	馬山建準宣伝部長, 建準脱退後韓民会文化部長, 米CIC通訳, 体育会会長.
ソンヒョンオプ	合資会社興業精米所代表. 38年馬山商工会議所産業部員, 馬山府会議員.	建準馬山支部財務部長, 馬山建準脱退後韓民会, 馬山独促財政部長.
バクサムジョ	柔道・シルム等スポーツ・ファン.	馬山建準治安隊長, 馬山人委内務委員会, 人民党員, 越北.
キムジョンヨル	モスクワ共産大学卒, チェミヨンチュル継妹.	馬山建準書記, 全評結成大会馬山地域交通労組代表, 銓衡委員, 全評執行委員, 朝共馬山市党宣伝部長, 南労党宣伝部長, 越北.

長に民族主義者のミョンドソク, 組織の特性上もとても重要な組織部長, 書記そして当時の実質的な物理力であった治安隊を掌握しうる治安隊長などを社会主義系列が占めた。他の2派の幹部たちは, 過去の組織活動の経験に照らして, このような幹部構成では主導権を握ることができないと判断して建準を脱退し, 「韓民会」を結成することになる。こうして結成された馬山建準は, 他の地域の建準と同じく, その最緊急任務である治安維持に万全を期した。ところが, 馬山駐屯日本軍部隊の指揮官たちは「建準が相当量の武器を確保してまもなく日本人を襲撃する」という情報が入ると, 重砲兵1個小隊の兵力を動員して建準事務室を包囲し, 「日本人の生命に脅かしたり, 財産を奪取する朝鮮人に対してはわれわれは武力を行使する」といってミョン委員長を脅した²⁷⁾。

10月初め, 馬山では日本人が警備する倉庫が襲撃さ

れ, 軍人1名が死亡し, 日本人中隊長が自分の邸宅で殺害されるなど, いろいろな事件が発生した²⁸⁾。10月8日に馬山に進駐した米軍は, 布告を發して午後8時から翌日4時までの夜間通行を禁止した。しかし, 治安隊の活動と馬山府民たちの自発的な協力によって, 10月15日からは夜の10時まで夜間通行ができることになった²⁹⁾。

馬山建準と治安隊は, 他の地域と同様に治安維持を主としつつも, ハングル講習などの啓蒙運動や戦災帰還同胞の救護のために精力的に活動した³⁰⁾。これは米軍進駐後も馬山の治安隊がなお活発に活動していたことを裏書きするものであり, 進駐した米軍に朝鮮人の自治能力の高さを示すものであった。

2) 建準の解消と「人委」・「韓民会」への分化

1945年10月5日, 釜山で開催された「建準慶南代表

〈表2〉 馬山人民委員会幹部の主要経歴

姓 名	主 要 経 歴	
	植 民 地 期	解 放 後
キムミョンギョ	1892年馬山生まれ。普通学校卒。普通文官試験に合格、軍属として在職労働夜学校教師、22年新人会、23年馬山労農同友会、彗星会、24年馬山共産党、『東亜』・『時代』支局記者、25年朝共馬山ヤチェイカ、第二次朝共慶南道責任者、検挙・出獄（26年、29年）、30年新幹会馬山支会幹事、31年馬山自由労組執行委員長3回検挙（33年、34年、36年）。	馬山人委委員長、全農結成大会で中央執行委員。
イージョンチャン	馬山生。3・1運動で1年間獄苦、20年馬山俱樂部、新人会、彗星会、労農同友会、無産少年団、24年馬山青年会、30年新幹会支会組織宣伝部	馬山人委副委員長、馬山独促議長
キムヨンチャン	1905年昌原生まれ。23年東萊青年会北京朝陽大学卒、朝共北京支部、28年高麗共産青年同盟慶南道責任者、検挙後出獄、理髪業に従事、33年慶南赤色教員労組、33年6月検挙。	全国人民大会馬山代表として参加民戦専門委員。
パクサムジョ	〈表1〉参照。	

者会議」で、朝鮮人民共和国を絶対的に支持するという「慶南人委」が誕生すると、各地方でも続々「人委」が結成された。10月初め、馬山建準でも釜山代表者大会の決議事項を尊重して、「人委」を組織した。そして、治安維持をさらに効果的にするために、町・洞・里別に自衛団を組織し、その団員も厳選して自主的に活動しようとした³¹⁾。馬山人委（当時慶南自動車馬山支店2階）の部署と幹部は次のとおりである³²⁾。

委員長：キムミョンギョ

副委員長：イージョンチャン

内務委員会（部）：キムヨンチャン・カンソヨン・パクサムジョ・チェビョン・チェギボン・パクチンス³³⁾

他の地域の場合、建準幹部たちが大部分人委幹部に選任されたが、馬山地域では完全な改編がなしとげられた。すなわち、馬山人委の幹部たちは〈表2〉からも確認されるように、社会主義的傾向の人士たちで構成されたのである。このようになったのは、先に言及したように、最初3派連合であった馬山建準から、すぐに他の2派に所属する幹部たちが脱退してしまったからである。結局、全国的に建準が人委に解消すると、馬山の建準もこれに歩調を合わせ、実質的な地方自治権力としての機能を遂行するための組織改編を試みたものであると考えられる。

馬山人委の組織構成を見れば、内務委員会だけがあるが、この内務には他の地域の人委のように役割分担があったであろう。また、馬山では陸路だけでなく海路も主要な交通路であり、船舶は交通手段としてだけでなく人委の物的基盤を確保しうる重要な手段でもあった。したがって統営人委の組織構成から確認され

たように、傭船（チャーター便）を担当する部署も置かれたと推測される³⁴⁾。

一方、ペジョンインを委員長にした昌原の人委は、その本部を馬山に置いていた。一時昌原人委は馬山府庁と昌原郡庁を接収し、郡の行政がすでに人委の統制下にあることを米軍政に通告したこともあった³⁵⁾。このため、米軍政では10月18日ペジョンインを監禁して記事掲載禁止措置をとる一方、「〔米軍政への〕協力こそが朝鮮の自由独立にとって最重要な言葉であることを銘記せよ」という警告を発した³⁶⁾。

昌原人委と馬山人委は同一の場所にその本部を置いていたが、その活動は区別された組織であった。しかし、なぜ上のような様相が出現したのかを、他の地域と比較して検討してみる必要がある。その他、馬山人委で活動した主要人物は、キムヒョジン、イーチョルテ、ヨンファン、キムジョンス、パククンジョ、オクムンファン、イーヨンチュラであった³⁷⁾。

一方、馬山建準が人委に改編されるに先立ち、建準が共産主義的傾向を帯びつつあると判断したソンムンギ・チョビョンギ・イーイルレ・カンテホたちは、アンジャンス・ソンヒョンオブ・チェチョルヨン・ミンヨンハク・ユソッキョン・チェヤンギ・ソンソンス³⁸⁾・パクジェハン・オクチュン・キムスドン・キムゲァンスたちを糾合して、「韓民会」を組織した。韓民会の事務室はチャン洞に置かれ、その部署と幹部は次のとおりである³⁹⁾。

委員長：ミンヨンハク

総務部長：チョビョンギ

組織部長：ユソッキョン

〈表3〉 韓民会幹部の主要経歴

姓 名	主 要 経 歴	
	植 民 地 期	解 放 後
ミンヨンハク	府会議員.	米軍政顧問. 大韓独促国民会馬山支部委員長, 韓電社長.
チョビョンギ	〈表1〉参照.	
ユソッキョン	ユチョルヒョン, 1905年生まれ. 晋州ヤンジョン学院修了, 渡満して写真業, 解放後帰国(無政府主義に同調).	馬山建準に参加, 脱退後韓民会組織部長, 光復青年会馬山支会長, 慶南独促閣連, 大韓労総慶南道連盟副委員長, 大同青年団馬山地区委員長, 大韓青年団馬山地区団長馬山市議会議員(自由党).
チェチョルヨン	チェチョンヨン, 新幹会, 光州学生示威支援.	建準脱退後韓民会宣伝部長, 民主主義者同盟委員長, 46年10月抗争時に負傷, 47年慶南警察局長.
イーイルレ	〈表1〉参照.	
ソンヒョンオプ	〈表1〉参照.	

宣伝部長: チョチョリヨン

文化部長: イーイルレ

財政部長: ソンヒョンオプ

韓民会は、このように組織を整備して幹部を選出し、いわゆる右翼勢力の結集をはかったが、〈表3〉に示すような彼ら幹部たちの経歴のゆえに大衆的支持を得ることができなかった⁴⁰⁾。そこで彼らは当時黒色のシャツと帽子を身につけて活動した治安団体の中の一つであった大同青年団を吸収し、勢力を挽回しようとした⁴¹⁾。

釜山の場合、建準が人委への改編を断行するや、これに同意しない一部幹部たちが「建準慶南連合」⁴²⁾を結成した。しかし、建準結成以後人委に改編する前に一部幹部たちが建準を脱退し韓民会を結成した馬山の場合は相当特異なものである。

馬山地域でこのような動きが見られたことを単に史料上の問題とだけすることはできない。なぜなら、他の中小都市でもこれと類似する組織があったかもしれないが、新聞や米軍政史料に現れない事実から勘案すると、馬山地域とは比較にならない微々たるものであったと見なければならぬからである。したがって、逆に馬山地域の韓民会はかなりの影響力と組織的根拠を持っていたと見なければならぬだろう。

1945年10月8日、スミス大尉を責任者とする米第24軍団第40師団の先遣隊が馬山に到着した⁴³⁾。当時、馬山に進駐した米軍兵力は2個大隊程度であったが、彼らは架浦にあった日本軍重砲兵大隊(現国軍統合病院)の幕舎に入った。米軍は10月12日、朝鮮人たちの報復を恐れながら暮らしていた50余名の日本守備隊員たちを武装解除した。

また、米軍は馬山の統制権を掌握して地方警察力を

点検し、朝鮮人30名を選抜して警察に配備した。警察責任者であったレンダル中尉は日本警察の武器を押収し、民間人たちにすべての武器は米軍に申告せよという指示を下した⁴⁴⁾。スミス大尉は塚本馬山府尹から府庁を接收した。当時のスミス大尉の通訳はホンソウン⁴⁵⁾が、米CICの通訳はイーイルレが担当した⁴⁶⁾。

この当時、米軍は人委を公然たる共産主義者、韓民会を穏健主義者と分類していた⁴⁷⁾。米軍がこのように判断した根拠は、一次的には残留日本人たちの、さらには韓国人通訳たちの報告にしたがった可能性が濃厚である⁴⁸⁾。この点を考慮すれば、これから後の米軍政の政策方向を予測することは容易であろう。ともかく、以上のように馬山地域にも米軍が進駐し、軍政実施の準備をはじめた。

先述したように、米軍政による昌原人委に対する弾圧があったにもかかわらず、馬山人委では、10月24日午後2時に天海荘に馬山在住の各政党各界の権威者を招請して、「国家建設のために市民の総力を一日も早く合せよう」ということで、活発な意見交換をしている。

この席上で討議された事項は、米進駐軍歓迎問題、市民行動統一問題、帰還同胞救護問題であった。米軍歓迎問題については、7人の銓衡委員を選出し、30名で構成される「米進駐軍歓迎準備委員会」を組織して担当せしめ、市民行動統一問題については、「朝鮮独立促進馬山協議会」が10月28日に市民大会を開催することとし、決定権をこの市民大会に委託した⁴⁹⁾。

馬山の諸政党・社会団体の代表160余名は、10月28日と30日に共楽館で会議を開き、「私心を捨てて独立をめざす」という名分の下に「朝鮮独立促進馬山協議会」を正式に出帆させた。この協議会は次のような部署と幹部を選任し、組織の目標を「馬山のすべての多

〈表4〉 朝鮮独立促進馬山協議会（馬山独促）の主要幹部の経歴

姓 名	主 要 経 歴		備 考
	日 帝 時 期	解 放 後	
イージョンチャン	〈表2〉参照.		
キムジョンシン	〈表5〉馬山市長参照.		
ミンヨンハク	〈表3〉参照.		
イーボンス	旧馬山魚市場店員, 馬山労働夜学校卒, 馬山労働会, スヤン青年会, 馬山青年会馬山青年連合会, 26年朝鮮共産党員.		イボムス (衆報)
ミンヨドソク	〈表1〉(a)参照.		
アンチャンス	馬山府会議員	大韓独促国民会副委員長	
キムヒョンジン	キムヒョンソン, キムヒョンジン, キムヒョンユン, キムミョンシ兄弟姉妹, 30年新幹会馬山支会調査研究部, 31年新幹会馬山支会委員.	馬山建準準備委員, 馬山人委参加, 朝鮮共産党・南労党馬山市党委員長, 民戦, 47年病臥にふす. 越北. 夫人と長男キムチギユ・長女は6・25直前に犠牲.	
オクジョンス		体育会会長, 平田酒造場払下, 桜館・馬山座・共楽館など3劇場管理.	
キムキドン	27年新幹会馬山支会組織宣	伝部, 31年馬山支会幹部.	
オクムナン		全人大会馬山市代表, 南労党員, 民戦馬山市総務局長, 馬山民戦議長団	

様なグループと政党の活動を, 朝鮮の完全な独立を早めるために米軍政と十分な協調の中で調和させる」ということを決議した⁵⁰⁾。

- 議長: イージョンチャン
- 副議長: キムジョンシン, ミンヨンハク
- 総務部長: イーボンス
- 同部員: チェガルシク
- 人事部長: ミョンドソク
- 組織部長: チョンギボン
- 財政部長: キムヒョンジン
- 会計部長: キムヨンシク
- 資料部長: アンジャンス
- 外交部長: キムシロク⁵¹⁾
- 渉外部長: オクジョンス
- 連絡部長: カンスヨン
- 宣伝部長: キムギホ⁵²⁾
- 同部員: ソクドン, キムキドン
- 救護部長: オクムナン
- 同部員: イーハクボン, カンドユル

〈表4〉からも確認できるように, 馬山独促の幹部構成は, 初期の3派が網羅されていることを知ることができる。このようになったのは, 何よりも中央で10月23日に左・右人士200余名が集まり, 「独立促成中央協議会」を結成した⁵³⁾ことに影響を受けたからであろう。勿論, 他の地域でも独促が作られはするが, その時期が11月以後であり, 幹部たちの性格は馬山とは完

全に異なる右翼団体であった。

とすれば, イージョンチャン・キムヒョンジン・オクムナンらの人委勢力がこの組織に積極的に参加した理由は何であったか。第一には馬山人委は自分たちを共産主義者集団と見なしている米軍政と友好関係を維持し, 彼らの政治的立場を隠すための措置 (スウェイド・shade) であったということもできよう⁵⁴⁾。第二には, 人委がこの組織を文字通りに「朝鮮の独立を促進する馬山協議会」と解釈していた可能性も排除することができない。最後に, 人委と韓民会がその組織を引続き存置せしめつつこの団体を結成した事実から見ると, 互いに異なる位相の組織を想定していた可能性もある。

馬山で結成されたこの組織から, 朴憲永が李承晩に独立促成中央協議会 (「独促中協」) から親日派を排除することを要求したものの李承晩が拒否した時点⁵⁵⁾, すなわち10月31日以後, 人委所属幹部たちが離脱したのであろう。その後, 馬山独促は組織改編を断行し, 米軍政史料でしばしば確認されるように, ソンムンギが指導したらしい⁵⁶⁾。

米軍は, 進駐初期には人委指導下の治安隊が警察として活動する現実を認定するほかなかつたが, 次第にこうした治安団体を解散せしめ, 親日警察の再登用と再教育した警察を活用して治安の主導権を掌握した。すなわち, 米軍政は, 釜山・馬山・晋州に巡査講習所を作り, 18~24歳の青年たちを集めて訓練し, この講

〈表5〉 歴代馬山市長と主要経歴

姓 名	在任期間	主 要 経 歴		備 考
		植 民 地 期	解 放 後	
1. オクキファン	45.3.1～	号は籃田，馬山金融組合長。	旧馬山金融組合長。	府尹。* 玉山舜基
2. キムジョンヘ	46.5.1～	1903年固城生まれ。京城高普附設教員養成所卒。教員，梁山郡米穀統制組合長，梁山郡守梁山郡農会会長，梁山郡農会長（以上38年）。泗川郡守，42年陝川郡守，6等7級，正7勲6，陝川郡農会長，45年当時金海郡守。	昌原郡守（45年10月25*日付），軍政庁第2代馬山府尹（46年），大東制帽の専務取締役，韓国米倉馬山支店長。	* 金井喜一
3. チョンジェソル	47.5.10～	1900年咸南利原生まれ東京帝大農学部林学科卒，慶南道技手，居昌産業課長，林産課長。	馬山府尹（47.9.9），副市長イースジョン。	47.9.5 * 伊東正明
4. ソンヨンス	47.11.5	1900年釜山生まれ。東萊高普，京城法専卒，晋陽森林警察部を経て河東郡庁面行政主任。42年宜寧郡内務課長，従5，45年宜寧郡内務課長。	45年10月25日付で河東郡守，慶南道厚生課長米軍政第3代馬山府尹（47.12.8），釜山市長（4・5代）歴任。	* 徳山永岩 副市長・カンピョンス。
5. チャンドンウン	49.6.21～	1898年居昌生まれ。居昌公立普通学校卒，固城郡産業課長，居昌・晋陽内務課長。	南海・河東・統営郡守	* 章田和男
6. カンボンヨン	50.9.23～	1902年晋陽生まれ，晋州農業学校卒，東萊郡技手，晋陽郡産業課長	咸安・統営郡守。	
7. ホユンス	51.10.5～	1909年晋陽生まれ，晋州農業学校卒，東萊郡技手，食糧課技手。	東萊内務課長兼保健厚生課長，農務局食糧課長（47年）。	50.5～54.4 副市長ソン。
8. キムジョンシン	52.5.5～ 53.5.11	1904年馬山生まれ。号は梅下，キムジョンシン，東京電気学校予科中央大政経科中退，馬山共産党（24年），馬山青年運動（25年），『朝鮮』馬山支局記者，第2次朝共事件で連累，治安維持法違反で3年服役，新幹会幹部（30年），馬山自由労組執行委員（31年），馬山酒造株式会社設立，馬山府会議員。	『南鮮新聞』社長（46年），東洋酒精株式会社社長，馬山商工会議所会頭（46～49年），国民会支部長，国立薬学大学後援会長，自由党馬山市党副委員長（52年），自由党慶南道党委員長（58年），馬山大学長（66～67年），株式会社馬山文化放送第2代社長，1978年死亡。	* 金原芳司 自治当選
9. イービョンジン	53.5.16～ 55.9.22	慶北安東生まれ。小学校卒，酒類試験場で酒類技術習得。	清水酒造場払下げ，馬山商工会議所会頭（49年）。	民選2代

* 「備考」欄の*記号は創氏改名時の日本名を示す。

習所を修了した青年警官約40名を市内各地に配置した⁵⁷⁾。彼らは表面上では既存の警官とは違い，一方では一般市民たちに若干の信頼と安堵感を与えたかも知れない。

1945年11月1日，馬山・昌原・統営・固城・昌寧・咸安を担当する第57中隊が馬山に到着し，本格的な軍政任務を遂行し始めた⁵⁸⁾。スミス大尉はレサール中尉を馬山市長とし，スパーチ中尉を昌原市長に任命した。

米軍政では，11月4日，馬山の韓国人警察に多数のカービン銃を支給し，武装させた⁵⁹⁾。そうした中で中央の米軍政庁が正常化すると，その年12月，馬山でも馬山軍政庁が正式に発足した。初代司令官はデイリー米陸軍少将（後日スティア少将）が任命された。執務室は当時馬山公立女子中学校寄宿舎（現馬山消防署裏手の東馬山税務署）であった。デイリー司令官の秘

書室長にはフンソンウンがなり，顧問にはミンヨンハクが抜擢された⁶⁰⁾。軍政庁令第21号によって，植民地時代の官治的自治制度であった府制が継続して効力を持つようになった。デイリー司令官は周囲の勧告によってオクキファンを馬山府尹に選任した。米軍政期間中には，オクキファンの外にキムジョンヘ，チョンジェソル，ソンヨンスらが次々と選任され，府政を担当した⁶¹⁾。また，官吏たちも第40師団長であったハリスの命令がある時まで，その職を遂行するように指示した。そして，馬山軍政庁は管内主要機関や部署に米軍担当官を派遣し，監督・調停した⁶²⁾。

軍政布告令などに違反した各種の犯罪者は，米軍政裁判を受けたが，裁判長はデイリー司令官であり，検察官はメッサー大尉であった⁶³⁾。

〈表5〉および〈表6〉から明らかのように，米軍

〈表6〉 馬山署に赴任した警務官と検察官の主要経歴

姓 名	在任期間	主 要 経 歴		備 考
		植 民 地 期	解 放 後	
イムジョンソン	45.3.1～ 46.5.1	42年金海警察署警部補，解放まで馬山署勤務。	45年9月和順・昌寧署長に。	* 林 成
チョンジンウォン		38年慶南警察部保安課，42年慶南警察部高等警察課警部補，釜山・蔚山署勤務。	45年9月和順・馬山警務主任，馬山署長，監察官（第3地区，馬山）。	* 吉村友勝
ソンヨンドル	47.8.14 現在	42年咸陽警察署巡查部長。	統 営 署 長（46年），晋州署長，第12区（馬山）警察署長。	* 武村信広
ソダルシク		解放まで馬山署勤務。	蔚山建国協会副会長，蔚山独立促成会。	
ソンムヨン		解放まで梁山署勤務。	河東署長，慶南道捜査課長。	
チャンジグァン		巡查として出発，釜山署勤務，巡查部長として水上署勤務。道治安課警察補，水上署司法主任，金海・統営・密陽各署司法主任，33年梁山農民組合事件時に拷問恣行，釜山署司法主任兼務。解放まで釜山水上署勤務。	居昌署長，第12区警察署長。馬山軍政慶南道警察庁長に再任（第7管区，46年），解放後，濁酒製造所を運営，反民特委に回付される（収監当時左翼とともに回付され，人民裁判で死刑求刑される。）	
イーテジン		1899年泗川生まれ。弁護士試験合格。	釜山地方検察庁馬山支庁検察官（47年）。	
チェギョヒョク		1905年固城生まれ。京城法学専門学校。	検察官，釜山地方検察庁馬山支庁検察官。	
キムギョンウン		1913年馬山生まれ。馬山公立普通学校卒，朝鮮総督府裁判書記考試合格，統営支庁書記。	馬山支庁書記，釜山地方馬山支院監督書記（47年）。	
コウンファン		1904年咸南北青生まれ。京城法律専門学校卒，弁護士試験合格，弁護士，京城地法判事。	釜山地方法院馬山支院長，釜山地方法院馬山支院審判官（47年）。	
イードゥフン		1909年釜山生まれ，京都立命館中学卒，東京明大法科専門部卒，釜山地方法院判任官見習。	晋州支院書記，釜山地方審理院馬山支院審判官（47年），大邱高等法院判事（52年）。	

政庁が任命した治安・行政担当者たちの中には，過去に民族解放運動家であった人はおろか良心的な人さえもめったになく，ほとんどが植民地期に官僚と警察であった者たちであった。米軍政庁が協力者として求めた人々の過去の経歴はどの地域でも大同小異で⁶⁴⁾，慶南各郡の郡守として任命された者たちも同じであった⁶⁵⁾。また，当時注目に値する事実は，住民たちの反発を考慮したためか，米軍政は警察署長に限り頻りに担当地域を移して発令していることである⁶⁶⁾。

このような事情から米軍政下の官僚と警察は，米軍政に忠誠を尽くさざるをえなかったと思われる。また，彼らが自分たちを非難する勢力，すなわち人委を支持する諸勢力をひそかに妨害し弾圧したのは当然の帰結であった。米軍政のこうした治安・人事政策は統治効率上の便宜であったと解されるが，当時の大衆にとっては納得できるものでなかった。

結局，米軍政は当時一般大衆たちが要求した「親日派・民族反逆者たちを除去して急速に民主改革を実現する臨時民主政府を樹立する」ということに全面的に逆行する政策を実施したのである。したがって，この

後，米軍政および彼らが庇護育成した諸勢力と一般大衆たちとが鋭く衝突するほかなかったのである。

3) 各種大衆組織の建設とその活動⁶⁷⁾

馬山地域でも共産党・人民党・韓民党・民革党など多数の政党支部が存在したと思われる。しかし，その内容を確認する史料がないので，ここでは大衆組織の建設と活動を重点的に探ってみようと思う。自分たちの日常的な利益を擁護することと，国家建設に貢献することを目標にして，馬山でも多様な形態の大衆組織が建設された。キムジョンシン・イースホン・パクギス・キムドン・イーリム・アンユンボンたちは，解放直後に建準の方針にしたがい広範囲にわたる文化政策を遂行する目的で「馬山文化同盟」（初代委員長・キムジョンシン）を結成した。この組織が後に分裂して，そのうちの大多数の者は「朝鮮文化団体総連盟馬山連盟」とその傘下の個別組織で活動した。その活動の一環として馬山の共楽館で上映されたチョンジノブ演出の『カン氏一家』，チョンジノブ作『府使と樵夫』は多くの大衆に感銘を与えたといわれる。ただ，

「朝鮮文学家协会馬山支部」の活動は微弱で、その組織は有名無実の状態であったようである。また、馬山体育会がオクチョンス・キムジョンシン・パクサムジョらが中心になって1945年9月に発足している⁶⁸⁾。総じて馬山は統営などと同様に文化・芸術方面の活動の中心地の一つであったといえよう⁶⁹⁾。

わが国海産物生産の相当部分を占める慶南では、1945年9月初旬に「慶南水産建設委員会」が結成された。同委員会には総務・企画・生産・物資の4部が置かれ、馬山など沿海部の府郡でも委員を選出した⁷⁰⁾。馬山の海産物を扱う客主たちは植民地期から相当な富豪として知られていたが、解放後も彼らは有力な資産家であった。建準や人委が「馬山水産建設委員会」を結成したのは、これらの海産物業者たちを主要な活動資金源とするためであったと思われる。

青年学生の組織については、釜山のように詳しい史料が出てきておらず、その組織の発展過程と活動についての詳細を知ることができない⁷¹⁾。1945年10月、馬山青年同盟は次のような綱領を採択して、18~25歳までの会員を募集し、帰同(帰還同胞)支援募金、市民啓蒙、文化向上のための活動を展開した⁷²⁾。

〔綱 領〕

- ・われわれは純粋な青年の熱誠にもとづき大同団結し、建国の土台となろう。
- ・われわれはあらゆる努力を尽くして自己の教養を向上させよう。
- ・われわれは社会の堅実な働き手となるために健全な体位向上を図る。

当時、馬山ではキムファン・チョヒョン Chol・ペビョンジュ・ハンキデ・ヨデヨン・チョンマンソク・キムデファン・イーソガ・クオン○ヒョンたちが青年運動を主導していた⁷³⁾。1946年4月7日に、青年同盟・無窮会・協成会・七星会・一誠会・文芸同盟の青年200余名が集い、ソンサンギを委員長とする馬山民青を結成した⁷⁴⁾。馬山民青は、1946年4月25日に各地方の青年諸組織と連携して「朝鮮民主主義青年同盟」を発足させた。

ところで、馬山でも他の地域と同様に、解放直後にはいろいろな理由で工場の操業が中断していたが、軍政当局の承認を受けて馬山練綿工場が操業を再開した⁷⁵⁾のを皮切りに、漸次生産に活気を帯び始めた。朝鮮新興紡績株式会社の労働者たちはピョンドゥサンを管理委員長とする管理委員会を構成し、自主管理運動に突入した⁷⁶⁾。馬山の労働者たちは、人委を全面的に

支持し、彼らの日常的な利益を擁護するために各単位労組を結成した。これを土台として1945年10月14日には馬山金属労組・運輸・繊維・出版・海上・食料品・土建労働者が中心になり、「馬山労働組合協議会」を発足させた⁷⁷⁾。この協議会は隣接する各郡の組合と魚物、食糧などを交換する実務を担当する援助部を設置し、労働者の生活安定のために力を注いだ。同協議会の中心人物は、全評代議員で馬山食糧労組の代表者であったイードクシン、1946年4月6日米軍政によって検挙されるイーキルウおよびピョンドゥサンたちであったと推定される⁷⁸⁾。米CICが1946年4月21日現在「全評馬山地区委員会」に加入している労働者数を1万余名と推算している事実⁷⁹⁾は、当時の馬山地域の労働者たちの活況をよく示している。

1945年10月19日には、新興紡績講堂でキムヘソン・シンタッキ・チェドンナク⁸⁰⁾たちが中心になって馬山農民組合創立大会が開催された。この大会では、「地主と資本家の搾取を防ぐとともに、その脅威を駆逐し、8割以上を占める朝鮮農民大衆の生活を高め、教養を向上させ、祖国の文化水準を高め、祖国建設という厳粛にして神聖なる事業のために積極的に活動しよう」という大会の辞が発表された。

馬山農民組合は、当面する最重要目標として「3・7制」の獲得を掲げた。創立大会で臨時議長にシンタッキ、その他の幹部にはパーリン外24名を選任し、一般規約と次のような行動綱領を満場一致で可決した⁸¹⁾。

- ・小作料は3・7制を実施すること(ただし、日本人地主地の小作料は3・7制として農民組合で管理すること)。
- ・一切の公課金は地主が負担すること。
- ・小作権の移動は絶対反対すること。
- ・二毛作地の麦小作料制度を廃止すること。
- ・小作糧の運搬は2キロメートル以内とすること。
- ・超過負担は一切廃止すること。

当時、農民運動の主要な争点は小作料問題であり、馬山農民組合は3・7制で金納化することを主張した。これに反して地主たちは地主の取り分が3割しかない小作料比率も問題視したが、それ以上に小作料の金納化を許せば食糧需給問題が発生するという理由で、これに反対した⁸²⁾。

馬山の女性活動家たちは、キムヒョンユンの夫人キムダリム、キムヒョンジンの夫人、チョンギボンの夫人イ某と妹のチョンボンギョン、イーボムスの夫人チャンゲンジュ、シゲ病院ムノンジャン夫人、平安眼

科の嫁（チャブ）ソン某，キムミョンギユの夫人，パークジンス夫人，キムヨンチャンの二番目の夫人コミョンオクであった⁸³⁾。彼女たちは主に人委に関係した人物たちの夫人や親族であった。彼女たちが中心になり，1945年12月18日に共楽館で婦女200名が集い「婦女同盟馬山支部」を結成した⁸⁴⁾。彼女たちの政治的傾向は次の点によく現れている。すなわち，馬山婦女同盟では1946年5月初旬，晋州で李承晩が「馬山婦女同盟が感化され，私を全面的に支持して馬山の韓国婦人会に合流した」という演説をしたことを伝え聞き，「李承晩が馬山婦女同盟の支持を受けたいのなら，私利私欲を排し3千万民族の幸福のために民主主義国家の建設に協力せよ！ 欺瞞的謀略と策動で民族を分断させ，その間隙に乗じて民族反逆者の政権を建てようとする反動巨頭たちを徹底的に排撃する。」⁸⁵⁾という声明を発表している。

この外にも大衆組織が建設され，活動したであろうが，史料上の限界によって意識化・組織化の程度を正確に確認することができない。しかし，1947年6月，米ソ共同委員会に協議（対象団体になること）を申請した下の南韓の政党社会团体名簿を通して，馬山地域の大衆諸組織をある程度確認することができる⁸⁶⁾。

4. 民主改革，臨時民主政府樹立のための社会運動

1) 三相会議決定と民主主義民族戦線の結成

新たな国家建設のための努力は各界各層で進行して

いた。しかし，米軍政の政策方向はこうした努力とは全面的に背馳するものであった。加えて1945年末から本格的な食糧難が至るところで表面化しはじめた。当時，米軍政の食糧政策は大都市優先配分という原則をたてていた。すなわち，都市は消費グループに，その近隣の郡は生産グループに指定されたが，慶南では，釜山・馬山・晋州が消費グループに指定された。そうして，馬山米軍政は1946年から配給制を実施することを表明し，1946年1月1日から後には生活必需品の自由売買を厳禁することも明らかにした⁸⁷⁾。

こうしたなかで，いわゆる「三相決定」をめぐる激動の渦に巻き込まれることになったのである。「三相決定」＝「信託統治」と理解した釜山・慶南の政党・社会团体は，その政治的立場の如何を問わず，猛烈に反託運動を展開した。信託統治排撃運動は1946年の新年を迎え，南海・密陽（1月1日），晋州（1月3日），固城・統営・宜寧（1月4日）昌原（1月5日）など慶南各地に拡がった。

馬山では1946年1月4日，「託治反対市民大会」が開かれた。大会委員長にはミョンドソクがなり，キムミョンギユが大会趣旨演説をし，チョ Cholヨンが決議文を朗読して，秩序整然と大会を締め括った⁸⁸⁾。この馬山託治反対市民大会の詳細を知ることはできないが，昌原で米戦略部隊の2人の翻訳者が，「託治反対を拒否し米軍の下で働いていると家族が攻撃されるかもしれない」として辞表を書いている事実⁸⁹⁾などに照らしてみると，釜山と同じような雰囲気であったであ

団 体	性向	組織人員	地 域 ・ 支 部
東方思想会	右	9,000	馬山700； 山青500
興産労働者組合	右	5,215	釜山1,285； 馬山836
霊友会	右	5,000	釜山500； 馬山400
馬山商工会議所	右	3,319	法人100； 自営3,219（評定キムジョンシン）
朝鮮財産管理人連合会	右	2,500	全国20支部，釜山・馬山・晋州・統営・鎮海
朝鮮金属労組	左	16,596	釜山2,477； 馬山462
朝鮮食糧労働組合	左	8,384	馬山98
朝鮮出版労働組合	左	11,771	釜山483； 馬山145
朝鮮漁業労働組合	左	17,328	釜山3,456； 馬山3,749
朝鮮音楽家同盟	左	1,122	釜山120； 馬山56
朝鮮芸術家同盟	左	1,624	釜山83； 馬山53； 晋州35
朝鮮運輸労働組合	左	38,311	釜山13,423； 馬山3,061； 晋州1,010
朝鮮土建労働組合	左	21,025	釜山1,634； 馬山1,085
朝鮮海員労働組合	左	12,579	釜山6,363； 馬山555（パクピョンキル）； 統営681
朝鮮労働組合全国評議会	左	354,417	釜山67,625； 馬山9,923
朝鮮役徒会	中	26,531	釜山・馬山支部
朝鮮海運協会	中	10,670	釜山5,800； 馬山350

* 組織人員は全国総数を示す。

** この資料は米ソ共同委員会のアメリカ側代表団の評価書として成り立っており，主要団体，有名無実な団体，幽霊団体まで等しく綴られていて，右翼団体の中から協議に応じない諸団体は省略されている。

A. "Application for Consultation."

B. Slips made Political Advisory Group. Serial No. American Delegation

US-USSR JOINT COMMISSION APO 235（チョンヨンオク編『解放直後政治社会史資料集』第4巻 [1994 多楽房] 所収）。

ろうと思われる。

一方、釜山では1946年1月6日に、19の政党・社会団体が「三相決定検討会」を開催し、三相決定を支持することが朝鮮独立の捷徑であるとみて、三相決定支持を決議した。馬山でも同様であったと推測される。同年1月22日、馬山地域の労働組合外30団体が「反ファッショ闘争委員会」を組織した⁹⁰⁾ことからみれば、三相決定を支持する方針が組織的に拡められていったと思われる。この頃、初めて馬山人委の看板と倉庫の物品が盗難にあう事件が発生したが、これがその後の白色テロの序曲となった⁹¹⁾。

一方、中央軍政庁警務局では警察組織を整備し、各府郡の警察署長の外に慶南道を4区域に分けて地区監察官を置いた。そして2月1日付で馬山地区を第3地区とし、警務官チョンジンウォンが正式に就任した⁹²⁾。こうした政治情勢の中で、1946年1月31日、「ファッショ親日派の撲滅と非常国民政治会議の排撃、3・1運動記念式、協同組合の結成」を当面の課題とする「民戦釜山委員会」が結成された。続いて慶南でも、各地域の情勢にしたがって各府郡の民戦結成準備会支部を2月15日までに結成するための作業が進められた。馬山でも府内30余団体の代表が2月4日午後7時、協同組合事務室に集まり、「民戦馬山委員会」を結成した。彼らは次のような綱領を採択して、委員長にイーピルゲン、副委員長にチョンインス⁹³⁾、常務委員4名、通常委員72名を選任した⁹⁴⁾。

- ・われわれは民主主義諸〇〇を総団結し、朝鮮の民主主義自主独立国家の樹立を期す。
- ・われわれは日本帝国主義の長年の統治による残滓勢力とファッショ陰謀輩を急速に除去することを期す。
- ・われわれは朝鮮経済の復興と民族文化の改善のために闘争することを期す。

このように各地方の組織基盤を固めた上で、道内各府郡の人委代表100余名が参席し、2月7日午前10時、道人委で「慶南道民戦結成準備委員会」が開催された⁹⁵⁾。

馬山民戦では同年3月20日、同会議室において民戦選対会議を開き、当初の委員77名に加えて新たに31名の委員を選出した。また、民戦組織を拡大し、目下緊急を要する食糧問題の解決と日本人財産の売買反対、外1件を商議した。その結果、食糧問題と日本人財産問題については速やかに市民大会を開いて討議・可決

することを決議した。さらに専門委員を選び、馬山の経済・土地・教育・文化・社会問題の対策を研究することを決定した⁹⁶⁾。

委員長：イーピルゲン

副委員長：イーユンハク⁹⁷⁾・イーグァンウ

総務部長：オクムナン

組織部長：キムギホ

宣伝部長：イーサンジョ

財政部長：パクナンス

委員：キムヒョンジン・シントッキ・ナヨン
ベク・キムヨンチャン・キムジョンヨ
ル

2) 米軍政による全面弾圧

三相決定をめぐる激動の渦中で、人委は地域の広範囲な政党・社会団体の結集体である民戦馬山委員会を主導しながら、大衆に向かって本格的に彼らの政治目標を宣伝していった。1946年2月から3月にかけて馬山人委は「反軍政パンフレット」を配付、散布して反軍政活動を本格化した。彼らの活動目標は、その組織拡大を図りながら民族統一戦線の結成を妨害する親日派を一掃すること、米軍政に対して反対すること、さらに米ソ共同委員会に対して主導権を掌握することに置かれていた。このような宣伝活動は馬山に限らず第6師団管轄下の全ての地域で組織的に展開された⁹⁸⁾。そこで民戦傘下の団体にばらまかれたピラには、「封建制を継承する日本帝国主義は米軍政によって支持されており、南韓では親日派と民族反逆者が米軍政下で跋扈している。」と書かれていた⁹⁹⁾。

1946年3月23日にはロシアの宣伝映画「東方の虹」が新馬山劇場で上映された。この話が秘密裏に馬山市内の全ての学校に知らされ、一部の教師は学生たちに映画を観賞させた。米軍政がこの事実を知ったのは、映画が上映され、フィルムが他の場所へ移された後であった。ちなみに、この映画は1946年3月31日に統営など西部慶南地方の各地で上映され、朝鮮南部のほとんど全ての都市と邑で上映された¹⁰⁰⁾。

巡回演劇団は、ロシア演劇の‘Hope’と革命劇場組合が作った‘The Village With No Number’を公演しようとしたが、事前に劇団員が逮捕され、上演できなかった¹⁰¹⁾。巡回宣伝団は公演時にロシア革命を賛美し、赤旗を掲げ、吹奏楽団の伴奏で「インターナショナル」の歌を歌いながら、釜山、馬山、鎮海地域の各邑を巡回した。こうした宣伝・煽動活動は学校でも積極的に行われ、馬山中学、女子中学の教師たちは授業時

間中に公然と共産主義教育を行い、軍政に反対することを教えた¹⁰²⁾。このように、民戦の活動は、ビラの散布を中心にして演劇・映画の上映、さらには学校における共産主義教育にも及んだ。こうした状況を当時の米軍第6師団G-2報告書は次のように要約している¹⁰³⁾。

人民委員会は38度線以北から財政的支援を受けており、共産主義者たちは彼らの宣伝を強化し、暴力的な活動、市民の攪乱、労働紛争、軍政の制裁に抵抗することなどを通して米ソ共同委員会によって設立される韓国政府の主導権を掌握しようと試みている。この路線に従う彼らの活動は次第に強化されるであろう。

また米軍政は、慶尚南道では6ヵ所を除外して、ほとんど全ての地域で人委しかないか人委が優勢な状態であり、民主党の支配的な所でさえ人委が併存していると分析している¹⁰⁴⁾。こうした状況を打開するため、米軍政は軍政官吏たちを動員して続けてきた「民主主義についての講義」を一層強化した¹⁰⁵⁾。また、民戦の活動に対抗するようにして、韓民党馬山支部は米軍政の許可と保護の下に、3月31日の馬山から同党新指導者の巡回講演を計画した¹⁰⁶⁾。

当時の米軍政は、大衆がなぜ民戦系の政党・社会団体に同調しているのかということよりも、「誰が」「何を」宣伝・煽動しているのかということの方に大きな関心を傾けていた。そして、1946年の3・1節記念集会以後、米軍政は慶南地域の民戦系政党・社会団体に対して本格的な弾圧を加えるようになった。

馬山では4月6日、労働組合協議会・民戦・人委・青年同盟・婦女同盟等の一切の書類が押収され、イーピルグン・イーユナク・チョンインス（以上民戦）、イージョンチャン・キムヒョンジン・イーチョルテ・ヨムフン・キムジョンズ・パククンス・パクサムジョ（以上人民委員会）、イーケルウ・ピョンドウサン（以上労組）、チェグァンリム（『衆報』記者）、チェウオンス（『自由新聞』記者）たちが一斉に検挙された。昌原郡では人民委員会の傘下にあったチョンヘイン・チョヒョンギユ・キムシチェ・ペーソガブ・チュドゥセンらが検挙されるなど、政党・社会団体関係者約50名が検挙された¹⁰⁷⁾。さらに翌日、鎮海と馬山の警察は、釜山地方警察局長の命令で馬山・鎮海・巨済・固城そして統営の人委・青年同盟・労働組合・協同組合・婦女同盟など民戦系団体の幹部27名を逮捕した。逮捕された者の中には鎮海邑長（民戦）や副邑長（民戦）、

官吏たちもいた。巡回演劇団13名も馬山で摘発・逮捕された。この検挙で総数127名が逮捕された¹⁰⁸⁾。

4月15日、チルレート道長官は馬山を訪問し、官公署と社会団体代表たちを集め、「軍政は朝鮮独立に対して精神的・物質的後援を与えており、朝鮮が一日も早く独立することを願っている。この軍政を妨害することを煽動するものは処断する」と明言した¹⁰⁹⁾。さらにラーチ長官は4月23日の午前、「慶南地方民戦系政党および新聞社幹部検挙事件」に関連して次のような検挙理由を説明した¹¹⁰⁾。

1. 彼らが勝手に各種の免許証を発行して、代価の金品を受けている。
2. 米の運搬証を発行した。
3. 軍政庁の倉庫を接收した。
4. 軍政法令第45号に違反した。
5. 各郡指導者たちに「米国に反対しよう」という趣旨の電信を発送した。
6. 旧日本人財産を非合法的に接收使用した。
7. 合法的な米の運搬を妨害した。
8. 米の運搬を妨害するように郡職員たちを脅迫した。

結局、米軍政は、慶南各地域で民間団体が政府のように振る舞い、政党登録法に違反したという理由で民戦系の政党・社会団体の幹部を検挙し、米軍政に批判的な記事を掲載したという理由で各新聞社を強制捜索して、大々的な弾圧を加えたのであった。

この時検挙された鎮海人委の指導者チョンヘインが監獄で病死すると、人委のメンバーは「日帝警察」と憲兵にその責任を帰して抗議した。葬礼の行列が鎮海警察署の側を通り過ぎる時には「インターナショナル」の歌を斉唱し、ロシア国旗や赤旗を打ち振り、警察署のガラス窓を壊すなどして抗議した。この際、5名が死亡する事件¹¹¹⁾が発生した。米軍政のこうした弾圧にもかかわらず、民戦系の政党・社会団体はこれに対抗する物理的な行動や米軍政に対する直接的な敵対行動は取らなかった。

馬山などで米軍政の検挙旋風が吹き荒れていた1946年4月初旬、全国各地では、将来の韓国大統領に関する人気投票で沸き立っていた。馬山でも投票が実施されようとしたが、国家の大事に対してあまりにも軽率な行為であるとして人気投票を拒否する事態も発生した¹¹²⁾。

このような中で、李承晩は4月30日に東萊・馬山、5月1日に鎮海、5月2日に晋州を巡回講演し

た¹¹³)。この頃、左翼と右翼がピラで互いに相手を激烈に誹謗する宣伝戦を繰り返して、馬山警察署はこれを厳しく処分するという警告を発している¹¹⁴)。

5月6日には馬山軍政司令官の命令だとして、馬山警察署は市内の各金融機関に預けてあった朝鮮人民共和国を支持する16団体の預金を凍結した¹¹⁵)。米軍政と警察のこうした措置は、民戦系政党・社会団体の活動資金の流れを遮断し、活動を萎縮させようとしたものであった。

以上のように、「三相決定」発表以後、人委系の諸勢力は民戦に結集して、彼らの主張を大々的に宣伝し大衆を煽動する活動を展開していた。これに対して米軍政と警察は、その幹部を検挙したり資金の流れを遮断するなどして、本格的な弾圧を試みたが、大衆が民戦系の政党・社会団体の主張に積極的に呼応することを防ぎきれなかった。

3) 解放1年の総決算としての「10月抗争」

1946年5月、慶南地方を襲った激しい豪雨のために、各地で道路が流失し慶南地方の交通は麻痺状態となり、わずかに釜山・馬山・昌原間だけが通行可能な状態であった。水災が日増しに拡大する一方で¹¹⁶)、コレラ(虎列刺・ホヨルチャ)が猖獗を極め、ただでさえ大変な大衆生活を打ちのめした。この時、コレラに罹った人は全国で1万5,644名、その中1万181名が死亡した。死亡率は実に65.2%にも上ったのである¹¹⁷)。5月4日、慶南道では各府郡に対して「コレラ非常令」を出し、馬山でも旧道庁舎の武徳殿に本部を置く防疫委員会が緊急に設置された。しかし、5月14日に第二の犠牲者が出ると道内全域でその感染をくい止められなくなり、患者が増えはじめた¹¹⁸)。帰還同胞の収容所から発生した馬山のコレラは、市内全域に広がった。患者があまりに急増したために、病理検査を行なう暇もなく、「吐いて死ぬば」すべからくコレラ患者と見なされた。患者が発生した家のまわりには縄が張られ、患者の家には至るところに生石灰が撒かれて、それこそ「白い家」になってしまった。慌てた米軍政庁は、本国から予防薬とDDTの緊急支援を受けて、空中撒布をした。この当時、馬山府内には20余名の医者だったが、ろくろく治療もできなかった。抗生剤や下剤はあるわけがなく、リングル注射薬さえ品切れ状態であった。あちこちで患者の脱水症状が激しくなると、一部の医者たちは水を沸かして蒸留水を作り、注射用に塩を0.8%混ぜてリングル液の代用として使用した。このため一部の患者が静脈注射に含まれた不純物のせいでひどい後遺症にかかることさえあった。予防注射

薬が不足すると、コレラの予防には焼酎や大蒜(にんにく)が効くという俗説が出回り、この年は焼酎と大蒜までが払底した¹¹⁹)。

水害にコレラが重なって悪化した大衆の生活は、瀕死の状態であった。6月下旬に馬山軍政は「麦収集協会」¹²⁰)をつくって食糧配給に万全を期そうとしたが、大した効果をあげられなかった。解放1周年を迎えた時点で、馬山府民の多くが直面していたのは残酷で希望の持てない生活であった。その悲惨さは各界の人士たちが当時の新聞に掲載した記事によく表れている¹²¹)。この生活難が馬山の民衆たちをしてさらなる政治闘争へと駆り立てる契機となった。

しかし、当時の米軍政の「世論調査の結果」はこれとは対照的なものであった。それは、「鎮海と馬山の民衆たちは米国の占領に対して確固たる好意を持っている。ほとんど全ての人が朝鮮が独立を勝ち取った後にも、政府の法制が強化される時まで米国の軍隊が残っているべきであると思っている。」と表現していたのである¹²²)。

同年6月28日の夜、馬山人委・民戦・労協・婦女同盟・『人民解放報』総局など7つの団体が右翼団体によって襲撃され、看板が盗まれるという事件が発生した¹²³)。このように白色テロが露骨になった背景には米軍政と警察の庇護があったと思われる。同年7月6日、大韓独促国民会馬山支部では、尹奉吉・李奉昌・白貞基ら3義士の追悼式をソンホ国民学校で挙行了¹²⁴)。その他の地域でも3義士に対する追悼式が、主に右翼の人々によって挙行された事実を照らしてみると、馬山の右翼が自分たちの勢力を拡大する方法としてこの追悼式を利用したと思われる。このような中であって、馬山の政党・社会団体は、解放後はじめて迎える8・15記念行事を準備するために、政治的立場の如何を問わず合作すると発表した¹²⁵)。

一方、全評の「国際労連加盟祝賀大会」が8月初旬に釜山で開催された¹²⁶)のを機に、民族指導者たちの馬山訪問が相継いだ。このような雰囲気の中で馬山の民衆は本格的に自分たちの日常的な要求を掲げて動きはじめた。新興紡績の労働者たちは解雇者の復職と彼らの待遇改善を貫徹するために争議に突入し¹²⁷)、街頭では軍政管理に反対する示威を展開し、指導者が逮捕された¹²⁸)。また、8月26日、馬山の1,000余名の帰還同胞は、官吏に優先配給する「官尊民卑」の当局の配給姿勢に抗議して示威運動を起こした。3日間嘆願したにもかかわらず、資格の是非を理由に要求がはねつけられると、彼らは8月28日に市庁に雲集して激しい抗議行動を展開した。これに対して警察は米軍の協

力を得て空砲弾を撃ち、デモ隊を解散させた。この時15名が逮捕され、帰還同胞の不満はますます沸騰していった¹²⁹⁾。

以後、各職場では生活難の解決を要求する運動が続発し、社会団体もこの支援に乗り出したが、時間の経過とともに事態は悪化し、結局、本格的な闘争に突入していった。米軍政は食糧政策に対する根本的な解決策を講じるよりも、人委が民衆を煽動しているを見て、馬山人委の看板を撤去し、「再び煽動したら厳罰に処す」と警告した¹³⁰⁾。こうした一連の諸事件が「10月抗争」の前奏曲となった。

「10月抗争」は、1946年10月1日から11月11日の間に朝鮮南部全域の74の府郡で展開された¹³¹⁾。釜山での9月ゼネストに触発された抗争は、部門や地域を越えて全国的に拡がった¹³²⁾。示威運動が慶尚南道各地域で連鎖的に起こり、警察官署や警察・右翼人士を主たる攻撃対象にするようになった。

馬山では10月6日と7日に抗争が発生し、多数の死傷者が出た。この時の示威は民戦系の幹部たちが計画したものであるが、他の地域でも確認されるように、示威現場での行動を直接指導したのは青年幹部たちであった。馬山ではイーテグンの指導の下に、ソンジョンヒョン・イージョンンらが示威を主導した¹³³⁾。彼らは他の地域と同様に、米の配給があるという噂をまきちらし、市民の関心を引きつけた。彼らは10月6日の朝から道の要所要所に見張りを立て、「米の値段が高すぎて買えない」「米軍政のために米が買えない」「米が配給されるぞ」とかけ声をあげながら、「元町（南城洞）の派出所前に行ってみよう」と大衆を誘導した¹³⁴⁾。

そうして、またたく間に1,500名の群衆を集めた。警察が解散するように求めると、派出所に投石して攻撃した。警察が米軍の援助を求めたことによって米軍40名が急派され、示威を鎮圧した。この日の衝突で示威参加者4名が死亡し、警察1名が重傷を負った¹³⁵⁾。米軍政はこの日、左翼指導者を釜山で6名、馬山で9名、昌原で25名検挙した¹³⁶⁾。

また、10月6日、馬山の港湾と施設の労働者たちは、生活難を改善してくれなければ10月7日の午前9時からストライキに突入すると通告した。軍需物資輸送の主要拠点における埠頭労働者たちがこのような行動をとると、米軍政は当日労働組合の指導者たちとの会談で要求を受け入れることで合意した。

しかし、この日の示威で死傷者が出て、さらに検挙の消息が伝わると、事態は新たな展開をみせた。民戦関係者たちは示威をさらに組織的に計画した。10月7

日の朝から群衆が集まりはじめ、10時30分頃に4ヵ所で同時多発的に集会が開催された。

埠頭にはおおむね800名ほどが集まったが、軍政官吏が説得するとすぐに解散した。彼らはすぐに他の集会場所に移動した。馬山女子高の近所に集まった1,000余名の群衆たちは、投石をしながら街頭行進を続けた。警察が群衆に追い回されている時に、M-5戦車2台を先頭に立てた米軍が現れ、群衆は離散した。また、他の示威隊1,000余名は、若干の火器と棒切れ（カンモク）で武装して城南洞の派出所を攻撃した。彼らは派出所を破壊し、8丁の小銃と200余発の弾薬を奪った。続いて支署の横にあった韓民会の事務室も襲撃した。また、この事務室にいて脱出した国民会幹部たちをつかまえ、群衆の中にひっぱりこんで集団で殴打した。さらに黄金醬油の労働者たちを先頭にした群衆は警察署を攻撃した。この時に集まった群衆は6,000名を上回った。2台のM-5戦車に搭乗する米兵が警察と一緒に群衆に向かって発砲した。そのため多くの死傷者が出て、群衆は離散した。11時頃には鎮圧のため米軍将校4名と鎮海の海兵隊75名が急派された。

示威はほぼ13時30分に終わった。流血の鎮圧によって示威群衆の12名が死亡し、20余名が負傷した。馬山の各病院は負傷した大衆で満ち溢れた。3名の警察もひどい負傷をしたが、一人は銃撃を受け、二人は殴打されたものであった。米軍政は143名の群衆を逮捕したが、そのうち単純に加担した者は釈放された¹³⁷⁾。逮捕者は公共の建物と旧馬山の教導所に分散して収監されたが、その所属は次のとおりである。すなわち労働組合員14名、共産主義者14名、民主青年同盟7名、女性同盟員2名、農民同盟1名、政治犯9名、左翼思想犯73名であった¹³⁸⁾。この内30余名は軍政裁判に回付され、4～5年の刑を宣告された¹³⁹⁾。

示威運動によっても要求が通らず、かえって多くの犠牲者が出ると、10月17日午前10時頃、銃や鎌・棍棒を持った約1,000余名の群衆が再び城南洞の派出所を襲撃した。彼らは警察の武器を奪い、国民会事務所を襲撃した。その結果、独促国民会幹部のアンスンギョ・チュチョリョン・ユソッキョン・イースンサン外3名が重傷、ソスンジョンが即死する事件が発生した。そこで、国民会馬山支部では国民会長にチャンレシクを任命する一方、これを契機に2つの機構の強化を図った。彼らは各町・各洞単位に自衛団を組織する国民運動を展開して、棒切れと鞭（「チムチュル」方言？チムチル）で武装し、自ら治安を確保しようとした¹⁴⁰⁾。10月抗争期間に馬山ではミンヨンハクが代表

を務める国民会青年団の外、多数の右翼青年団が警察と一緒に示威鎮圧に功績をあげた¹⁴¹⁾。この後、馬山の右翼は米軍政の庇護を受けて、より一層その勢力を拡大していった。10月抗争以前にも彼らは小グループで各地を巡回しながら左翼を攻撃したが¹⁴²⁾、この抗争を契機として合法的な空間を確保するようになった。

馬山群衆の大規模示威に直面しても米軍政は自らの政策の失敗を省みなかった。それどころか、当時押収した「馬山の共産主義者たちが大邱の騷擾を支持しに行く」という内容の共産党文献を根拠にして、共産主義者の背後操縦のみを強調した¹⁴³⁾。米軍政は常に示威の原因ではなく、示威の主導者に大きな関心を傾け続けた。このような中で10月26日に、米軍政は南朝鮮過渡立法議院選挙を挙行した。この選挙で慶南ではキムチョルス・ハマソク・キムグクテ・イージュヒョン・シンジュンモクらが選出され、馬山からは国民会青年団の支援を受けたソンムンギが選出された¹⁴⁴⁾。

他の地域と同様に、解放直後には組織力が劣勢であった右翼は、李承晩の名望に依拠して勢力を結集しようとしたが、米軍政がこれを積極的に庇護・育成したことにより、三相決定を契機にして自分たちの論理を獲得するようになった。さらに彼らは、10月抗争を経て本格的な自己防御の論理を構築し、一層団結するようになった。また米軍政は、この間の一連の事態を通して日本人や韓国人通訳の話が現実化してきたことを直感し、民戦系の政党・社会団体に対するさらなる弾圧を加えるようになっていった。その結果、組織の中核的力量を次々と破壊された民戦系の諸勢力は、それに対する反作用ともいべき闘争の波高をさらに高め、米軍政と激突するようになったのである。

5. むすび

解放直後、馬山地域で展開された社会運動の究極的目標は、当時の他地域の社会運動と同様に、民主改革の実施と臨時民主政府の樹立であった。しかし、馬山の社会運動には他地域と同一性を持ちながらも、いくつかの特徴が存在する事実を確認することができる。

第一に、馬山地域で建設された建準は、他の地域とは違って3派連合によって結成された。したがって、建準幹部は多様な政治的傾向を持つ人士たちで構成された。建準幹部の構成がこのようになったのは、3派の力量関係というよりは、建国という大義名分の下で社会主義系列が多く譲歩をしたことによるとみなければならぬ。

第二に、釜山のような大都市にだけ現れた右翼の分化が、馬山では「韓民会」という形態で早々と現れた点である。このような分化のために、建準から人委に解消する時に建準幹部がおおむね人委の幹部になるという一般的な傾向とは異なって、馬山では完全な改編がなされた。勿論このように早々と登場した韓民会の大衆に対する掌握力や支持度はさしたるものではなかった。しかし、このような現象は他の中小都市ではほとんど現れなかった特異な現象であり、なぜこの地域でこのような現象が現れたのかということに対する研究が深められなければならない。

第三に、独促馬山協議会の結成時期が他の地域よりも並外れて早く、幹部たちの傾向も極めて多様であった点である。この点はやはり馬山地域の特徴と見ることができる。なぜなら、他の地域でも独促支部は作られるが、主に右翼人士たちで構成され、その時期も11月以後であったからである。

第四に、米軍進駐後の米軍政の政策、特に治安・人事行政に見られた政策は、当時の馬山の民衆たちを失望させるのに十分なものであり、こうした政策自体が彼らの立場を自ら狭める結果を惹起したのである。

第五に、馬山人委と昌原人委が同一の空間に存在しながら、その活動は独自に遂行された点ややはり特異である。勿論このような点が晋州と晋陽郡、蔚山と蔚州郡などでも現れたかどうかを確認してみる必要がある。特に馬山は常に重要な軍事都市鎮海の後方補給基地と見なされていた点を看過してはならないだろう。また、本稿では便宜上馬山地域に限定したが、馬山近隣5郡との人的・物的連関性を把握しなければならない。なぜなら、米軍政が治安力を確保すると彼らの交通・通信が及ぶ範囲、すなわち都会地では米軍政に対抗することができなくなった民戦系勢力が近隣から都会地を包囲し、彼らの主張を拡散する戦術をとったことも推定されるからである。

第六に、人委を中心とした民戦系の政党社会団体では米ソ共委の発足が確定すると、その勢力を拡大して猛烈に宣伝・煽動した事実を確認することができる。これに対して米軍政庁が弾圧を加えたが、民戦系の政党社会団体の活動は萎縮しなかった事実もやはり確認できる。

最後に、馬山の10月抗争は、慶北地方と比べ、その熾烈さにおいて多少劣ったものの、慶南道内においては、統営に劣らず最も激しいものであったとすることができる。

* パクチョルギユ氏は、本論文発表当時、東亜大

学校大学院史学科博士課程に在学中で、それまでの代表論文として次のようなものがある。

- ・「米軍政期釜山地域の大衆運動」歴史問題研究所、『韓国近現代地域運動史Ⅰ－嶺南篇』1993, 驪江.
- ・「解放直後統営邑の社会運動」釜山・慶南歴史研究所、『地域と歴史』創刊号1996.

注

- 1) 『慶南新聞』「馬山遺史 (13)」1986年5月27日・同(14) 1986年6月10日, 同(15) 1986年6月17日・同(18) 1986年7月15日.
- 2) 馬山日報社刊『躍進馬山』1957, 1・4頁.
- 3) 植民地期馬山地域の社会運動については次の研究を参照のこと。(人名は一部を除きカタカナ表記とした一訳者注)
 - ・アンユンボン「馬山の社会運動」(未発表).
 - ・パクミョンユン「日帝下馬山の抗日民族運動」『馬山文化』2, 1983, 青雲.
 - ・オミイル「1920年代末～1930年代釜山・慶南地域の党再建及び革命的労働運動の展開と罷業闘争」『韓国近現代地域運動史Ⅰ－慶南篇』1993, 驪江.
 - ・昌原郡『昌原郡史』第2編第10章, 1994.
 - ・イーギウォン「1920年代前半期馬山地域の民族解放運動」『地域と歴史』創刊号, 1996, 釜山・慶南歴史研究所.
 - ・キムスン「1920年代慶南地域青年団体の組織と活動」『地域と歴史』第2号, 1996, 釜山・慶南歴史研究所.
- 4) 『躍進馬山』1頁. 鎮海の軍港建設過程と市街地形成については, 鎮海市史編纂委員会『鎮海市史』(1991) 参考.
- 5) 馬山市史編纂委員会『馬山市史』(1985), 112～117頁. 馬山の人口推移は次のとおりである。1910年－9,706名, 1929年－25,485名, 1938年－33,147名, 1945年－60,000名, 1946年－82,000名(同書35頁)
- 6) 『民主衆報』(以下『衆報』) 1945年12月20日～21日・25日, 1946年1月12日.
- 7) 『慶南新聞』「馬山遺史 (23)」1986年8月20日.
- 8) 『慶南新聞』「馬山遺史 (24)」1986年8月26日.
- 9) 『慶南新聞』「馬山遺史 (25)」1986年9月3日.
- 10) 軍政庁法令第2号「財産移転禁止」(韓国法制研究会『米軍政法令総覧』121頁), 『慶南新聞』「馬山遺史 (24)」1986年8月26日; 馬山の日本人財産(「敵産」)のなかで主要な工場は, 単独政府樹立後, 次のように払下げられた。

①〔酒造場〕:

チョンス(清水) ————— イービョンジン
 ピョンジョン(平田) ————— イーマンヘ
 ウォルボ(月浦) ————— キムヘンド
 ピンジョン(浜田) ————— オクジョンス

チョンドウォン(千島園) ————— ソンサムグォン
 ウォンジョン(原田) ————— ヨムグンモ
 サムホ(三好) ————— イーウシク
 セジョン(細田) ————— イーチャンヘ
 サンウプ(山邑) ————— ハンボムソク
 ソッキョ(石橋) ————— ムンサムチャン

②〔繊維分野〕:

朝鮮物産馬山工場 ————— ハンテイル(高麗紡績)
 馬山線綿工場 ————— パクヨンボ(亜州紡績)
 朝鮮新興紡績 ————— イーボックス(新興紡績)

③〔醬油〕:

ボクジョン(福田) ————— プルロ(不老)
 ファングム(黄金) ————— ファングム(黄金)
 ピョンジョン(平田) ————— ピョンファ(平和)
 サンジョン(山田) ————— モンゴ(蒙古)

④日本神社——(現・第一女中・教会側)

桜館——オクジョンス(第一劇場・火災で焼失)
 馬山座——(現・馬山劇場)
 共楽館——(現・市民劇場)

* 右側が払下げを受けた者及び改名(同新聞)

- 11) 『慶南新聞』「馬山遺史 (22)」1986年8月13日.
- 12) 1938年馬山商工会議所会員で, 高利貸業に従事していた。
- 13) 馬山商工会議所『馬山商工会議所90年史』(1987), 321頁, 『慶南新聞』「馬山遺史 (22)」1986年8月13日.
- 14) 『慶南新聞』「馬山遺史 (22)」1986年8月13日.
- 15) HQ, 143 D (RD) FIELD ARTILLERY BATTALION APO 40, Unit History OCCUPATION OF KOREA (to 31 Dec 1945)
- 16) 馬山の漢方医たちは10日午後1時, 石町で協会を結成し, 活動を展開した(ハングル文『釜山日報』1945年9月16日)。
- 17) 『慶南新聞』「馬山遺史 (22)」1986年8月13日.
- 18) 『慶南新聞』「馬山遺史 (24)」1986年8月26日. 当時の学校教育でもっとも力が注がれたのはハングル学習であったという事実については多数の証言がある。
- 19) 1903～1973. 馬山生まれ. 別称「目抜き」. 小学校卒, 渡日して労働に従事, 東京の無政府主義運動団体である黒友連盟に加わり, 「塵」編集同人や「黒色」同人として活躍し, 獄に繋がれた。20歳代で『朝鮮日報』を皮切りに『南鮮日報』や『東亜日報』の地方取材記者になった。1947年に『南朝鮮民報』を引き継いで『馬山日報』と改称し, 20年余にわたってこれを経営してきた。死後, 遺稿集『馬山夜話』が出版された(昌原郡『昌原郡史』[1994] 410頁)。
- 20) 「今日の馬山」編纂委員会編, 『今日の馬山』(1970)の55頁では, ユソッキョンが漏れており, 俗にユチュルヒョンとしているが, ユソッキョンの誤記である(民青, 朝鮮共産党, 南労党で活動, ハボン・キムピョンド・キムファンのインタビュー, 1993年1月5日, 1996年7月20日), 郷土史編纂会『郷土と人物』[1953] 128頁)。
- 21) 先の『今日の馬山』(55頁)では親日派をどのような基準で選定したのかわからないが, 親日派として,

- ク某, ファン某, 『毎日申報』のチャン某, 府協委員のミン某, アン某, ソ某, ソン某, キム某, チン某等が挙げられている。1934年の馬山府会は定員が24名であるが, 朝鮮人は次のとおり(藤村徳一編『朝鮮府邑会議員名鑑』朝鮮経済新聞社発行)。クイヌク・ソギフン・ファンカプチュ・キムジョンソン・チンギョソク・キムヨソソ・キムソンヒョン・チャンジェシク・イーペウ・チョンヨンジェ。
- 22) 先のキムヒョンユン(『馬山夜話』の著者)と混同する場合がある。このキムヒョンユンはキムヒョンソン・キムヒョンジンと兄弟であり, 次のような経歴を持っている。26年馬山青年同盟, 28年慶南青年連盟, 29年単一共産党協議会, 31年昌原相互夜学校赤色教員会, 32年検挙・2年6ヵ月宣告, 34年慶南赤色労組組織に参加, 36年キムテヨンが主導した朝共再建慶南準備グループ関係で検挙・釈放, 47年南労党馬山市党労働部長, 48年慶南道党労働部長, 慶南道海洋フラクション(プロクチュク)。
- 23) 前掲『今日の馬山』55頁。
- 24) ここは1908年埋築権確保闘争に結集した港民たちが建立した公会堂のあったところで, 民議所として使われたが, 1935年日本人たちが共楽館という3階建ての建物を建てた。現在, 市民劇場のある場所である。
- 25) 前掲『今日の馬山』55頁, 馬山市史編纂委員会『馬山市史』137頁, 『慶南新聞』「馬山遺史(22)」1986年8月13日。『今日の馬山』55頁には副委員長がソナムギの外1名が「イー〇〇」と出ているが, 事実の是非は確認できなかった。慶南建準・人委の建設状況, 部署と幹部についてはシンジョンテ「解放直後釜山・慶南地方の変革運動」(歴史問題研究所『韓国近現代地域運動史-嶺南篇』1993, 驪江)とパクチョルギユの「解放直後釜山地域の社会運動」(釜山市史編纂委員会『港都釜山』第12号, 1995)を参照。
- 26) 本論文の人名経歴は, 確認できる人物についてだけ次のものを参考にして作成した。
オミイル・イーギウォン前掲論文。
『朝鮮日報』『東亜日報』『中外日報』『時代日報』『釜山日報』『衆報』。
朝鮮総督府『朝鮮総督府及所属官署職員録』1936・1938・1939・1940・1941。
慶尚南道『慶尚南道職員録』1938・1942。
藤村徳一編『朝鮮府邑会議員名鑑』(朝鮮経済新聞社発行)。
朝鮮商工興信社『朝鮮商工録』(1947)。
コシヒョン編纂『慶南人事録』(1947朝鮮世論通信社発行)。
本論文の証言, G-2報告書, 『反民特委裁判記録』(1987年, 多楽房・影印本)。
『韓国近現代人名事典』(驪江・影印本), 郷史編纂会前掲書。
馬山日報社『躍進馬山』(1957), 前掲『今日の馬山』。
大韓年鑑社編『韓国名士大鑑』(1958)。
合同年鑑67年版別冊『現代韓国人名事典』。
イーギユンヒョン『新幹会研究』(1993歴史批評社)。
姜万吉・成大慶編纂『韓国社会運動人名事典』(1996創作と批評社)等。
- 27) 馬山市史編纂委員会前掲書112~117頁, 『慶南新聞』「馬山遺史(22)」1986年8月13日。
- 28) HQ, 40th DIVISION ARTILLERY APO #40 31 Dec 1945, 40師団 G-2, PR, No. 15 (1945. 10/9~10)・No. 18 (1945. 10/12~13)。
- 29) 『衆報』1945年10月21日。
- 30) ハングル文『釜山日報』1945年9月14日, 『衆報』1945年9月26日。
- 31) 『衆報』1945年10月13・15日。
- 32) 6師団 G-2, PR, No. 167 (1946. 4/3)。クアクサムジョはパクサムジョの誤記である(HQ, G-2, PR, No. 34, 1945. 10. 14)。米軍政は馬山人委の議長と副議長は自由主義者で, 他の人々は危険な急進主義者か共産主義者であると規定している。
- 33) チェギボンは文学家同盟で活動し, 1948年には朝鮮紡績に勤務しており, 同年末, 越北した。パクジンスは共産党員であり, 1946年の10月抗争後, 夫人とともに越北した(ハボン・キムビョンドの証言)。
- 34) 統営人委についてはパクチョルギユ「解放直後統営邑の社会運動」(釜山・慶南歴史研究所『地域と歴史』創刊号・1996)を参照。
- 35) HQ, G-2, PR, No. 56 (1945. 11. 5), よくベジョンハは間違えられるが, ベジョンインの誤記である(イルジョン, ユヒョクのインタビュー, 1997.7.12, 慶南第5代農民委員長)。
- 36) 米軍政は21日付けで記事禁止を解禁した(『衆報』1945年10月21日)。
- 37) 『衆報』1946年4月9日, 『解放日報』1946年4月16日, 金南植編『南労党資料集2』(1986トルベゲ) 124~125頁。
- 38) 1946年馬山商工会議所副会頭兼常務部長。
- 39) ハボン・インタビュー, 前掲『今日の馬山』55頁, 馬山市史編纂委員会前掲書137~138頁, HQ, G-2, PR, No. 34 (1945. 10. 14), 40師団 G-2, PR, No. 18 (1945. 10/12~13)。
- 40) 建国青年運動協議会『建国青年運動史』(1989) 947頁。
- 41) 『慶南新聞』「馬山遺史(27)」1986年9月24日, HQ, G-2, PR, No. 34 (1945. 10. 14) 40師団 G-2, PR, No. 18 (1945. 10/12~13, No. 31 (1945. 10/25~26)), 米軍政資料にはこの組織はソナムギが率いたと記録されている。
- 42) これについての仔細はパクチョルギユの「解放直後釜山地域の社会運動」を参照。
- 43) 『衆報』1945年10月13日。
- 44) HQ, 143D (RD) FIELD ARTILLERY BATTALION APO 40, Unit History OCCUPATION OF KOREA (to 31 Dec 1945)。
- 45) フンソンウンはヨンへ専門を出て, 馬山公立中学校英語教師として在職中に通訳官として招聘された。ヨンへ専門在学当時恩師であったイーミョモクが

- ホッジ中将の通訳官になると、フンを地方通訳官に推薦したのであった。前東国大行政大学院長後日、フンジョンヒョクと改名。
- 46) 『慶南新聞』「馬山遺史 (25)」1986年9月3日。
- 47) 40師団 G-2, PR, No. 18 (1945. 10/12~13).
- 48) CIC で通訳する韓国人と民主党 (DP) の議長であるソンムンギは次のように言った。米軍が韓国から出ていったならば、人民委員会はわれわれを排除するであろう。人民委員会は公々たる共産主義者たちである。馬山では発生するかどうかかわからないが、そのいかなる暴力をも防止するために巡察を強化しなければならない。
- 40師団 G-2, PR, No. 31 (1945. 10/25~28).
- 49) 『衆報』1945年10月28日。
- 50) 『衆報』1945年11月1日, 馬山市史編纂委員会『馬山市史』138頁, HQ, G-2, No. 59 (1945. 11. 8)・No. 77 (1945. 11. 26), 慶南独促についてはチャンウォンジョン「1945~1946年慶尚南道右翼勢力に関する考察」(韓国社会史学会『解放後政治勢力と支配構造』1996 文学と知性社) 参考。
- 51) 新聞記者会馬山支部副会長。
- 52) 1946年3月民戦組織部長。
- 53) このような状況についての詳細は、トジンソンの「1945~48年右翼の動向と民族統一政府樹立運動」(ソウル大学校博士論文, 1993) 29~32頁参照。
- 54) 40師団 G-2, PR, No. 28 (1946. 10. 24), No. 38 (1945. 11. 1~2); HQ, G-2, PR, No. 59 (1945. 11. 18). これらの史料からは人委が独促内に彼らの人士を配置しようとしたとみえる。
- 55) キムチョンヨン『年表 韓国現代史』(1986, ハンウルリム) 56頁。
- 56) 40師団 G-2, PR, No. 18 (1945. 10. 12~13), No. 31 (1945. 10. 25~26).
- 57) 慶南警察局長 Louis B. Atkinson 少将と軍史室士官であった Robert I. Nelson (2nd Lt. Inf.) のインタビュー, 1946年4月23日 (チョンヨンウク編『解放直後政治社会史史料集』第2巻 [1994年, 多楽房] 収録), 『衆報』1945年10月26日。
- 58) HUSAFIK, Part 1, Chap. IV; HQ, G-2, PR, No. 35 (1945. 10. 13~14)・No. 39 (1945. 10. 14~15), 慶南道内各地域の担当軍政中隊については, HUSAFIK, Part III Chap. III 63~65頁参照。
- 59) HQ, 143D (RD) FIELD ARTILLERY BATTALION APO 40, Unit History OCCUPATION OF KOREA (to 31 Dec 1945).
- 60) 『慶南新聞』「馬山遺史 (25)」1986年9月3日, 慶南道内各府・郡の顧問会の名単は『衆報』1945年12月6日付および1946年7月31日付参照。これら顧問たちの主要経歴を検討してみると, 植民地期に官僚経歴を持った人が大部分である。
- 61) 馬山市史編纂委員会前掲書, 112~117頁。『慶南新聞』「馬山遺史 (25)」1986年9月3日。
- 62) 同上。
- 63) 同上。
- 64) 当時任命された慶南道内の警察署長名単と彼らの旧任地については『衆報』1945年9月24日付参照。日帝警察の復旧については次の史料を参照。『衆報』1945年10月11日・13日, HQ, G-2, PR, No.174 (1946. 3. 13)・No. 151 (1946. 2. 13), Mark Gain『解放と米軍政』カチ, 77頁。
- 65) 1945年10月25日付で任命された慶南各地域の郡守名単と彼らの経歴については『衆報』1945年10月27日付を参照。
- 66) パクチョルギユの「解放直後統営邑の社会運動」中の〈表3〉と本稿の〈表6〉を比較してもよくわかる。
- 67) 釜山で組織された大衆組織については, パクチョルギユ「米軍政期釜山地域の大衆運動」を参考。
- 68) 前掲『今日の馬山』81, 86, 92~93頁。
- 69) 1947年6月, 全国的規模の美術展覧会が馬山で開催された(同上書85頁)。
- 70) 委員長にキムチルソン, 副委員長にキムジェウォン・イーナムレがなった(ハングル文『釜山日報』1945年9月13日)。
- 71) 青年運動についての最近の研究としては, 金ヘソンの『解放政局青年運動と民族統一戦線研究1945. 8. 15~1946.10』(イヘ文化社, 1996) がある。
- 72) 『衆報』1945年10月31日。
- 73) ハボン・キムビョンドの証言。
- 74) 『衆報』1946年4月9日。
- 75) 『衆報』1946年10月11日。
- 76) 『衆報』1946年12月20日。
- 77) 『衆報』1945年10月17日。
- 78) 『全評会議録』5~10頁(アジア問題研究所『朝鮮問題史料叢書』第14巻[1990]収録), 『衆報』1946年4月9日。
- 79) シンボギョン編『韓国分断史資料集』第6巻(原主文化社・1991) 178頁。
- 80) 他の地域の代表者については, キムナムシク編前掲資料集130~131頁参照。
- 81) 『衆報』1945年10月24日, 昌原でも農民組合が結成された(同紙)。
- 82) 『衆報』1945年11月8日。
- 83) ハボン・キムビョンドの証言。
- 84) 『衆報』1945年12月23日。
- 85) 『朝鮮人民報』1946年5月15日, 『解放日報』1946年5月16日, 婦女同盟は女性同盟に改編され, 1947年6月下旬, 朝鮮民主女性同盟馬山支部拡大委員会が開催され, 幹部を選任した(『衆報』1947年6月28日)。
- 86) 〈表〉馬山の政党・社会団体現況(1947年6月現在)
- 87) 『衆報』1945年11月8日, 12月27日・29日。
- 88) 『衆報』1946年1月5日, 6師団 G-2, PR, No. 79 (1946. 1. 5).
- 89) History of the 40th Infantry Division in Korea, Chap. III.
- 90) 『衆報』1946年1月26日。
- 91) 『衆報』1946年1月31日。
- 92) 『衆報』1946年2月6日, 他の地区については同新聞参照。
- 93) 馬山南労党副委員長, 人民共産党慶南道監察副委員

- 長, 馬山民戦議長団。
- 94) 『衆報』1946年2月8日。
- 95) 『衆報』1946年2月8日。民戦慶南道委員会準備委員名單は, 同新聞参照。民戦馬山府委員会は1947年6月中旬に次のように拡大改編された(『衆報』1947年6月18日)。
- 議長団: イーナク (南労党委員長)・○○○
副議長団: チョンインス (南労党副委員長)・イーヨンソク (労評委員長)・シンタッキ・イーギナム
- 事務局: イーナクキョン, 外5名
宣伝部: イーボムス, 外4名
組織部: カンスヨン, 外3名
財政部: ペーソシク, 外7名
委員: イーナク, 外58名
- 96) 『衆報』1946年3月4日・21日・27日, 一方, 釜山民戦ではその隷下に次のような専門委員会を置いて活動した。経済対策, 土地問題, 教育文化対策, 労働問題, 社会問題対策各研究委員会, 親日派・民族反逆者審査委員会 (同新聞)。
- 97) 南労党馬山委員長。人民共和副委員長。
- 98) 6師団 G-2, PR, No. 168 (1946. 4. 4).
- 99) 6師団 G-2, PR, No. 168 (1946. 4. 4).
- 100) 6師団 G-2, PR, No. 164 (1946. 3. 31)・No. 169 (1946. 4. 5)・No. 172 (1946. 4. 8).
- 101) 6師団 G-2, PR, No. 172 (1946. 4. 8)・No. 182 (1946. 4. 18).
- 102) 6師団 G-2, PR, No. 154 (1946. 3. 21).
- 103) HQ, 6TH INF DIV incl #1 to G-2, PR, #154 (1946. 3. 21).
- 104) 6師団 G-2, PR, No. 172 (1946. 4. 8), 人民委員会しかなかったり, 優勢な地域は次のようなところである。固城・統営・巨済, PAEDUN-NI, CIBIDI, KAYON-NI, CHUNGAM-NI, 咸安・昌原・ヨンサン・チンドンニ・ナムジリ・馬山・昌寧・チルウォン。
- 105) 6師団 G-2, PR, No. 231 (1946. 6. 6).
- 106) 具体的日程については, 6師団 G-2, PR, No. 165 (1946. 4. 1)参照。
- 107) 『衆報』1946年4月11日, 『解放日報』1946年4月16日・5月7日, 慶南各地域の検挙状況については次の資料を参考。『解放日報』1946年4月16日, 『解放日報』4月19日, 『衆報』1946年4月9日・15日・17日・23日・29日, 5月5日, 7月18日, 6師団 G-2, PR, No. 189 (1946. 4. 25)・No. 222 (1946. 5. 28).
- 108) 6師団 G-2, PR, No. 172 (1946. 4. 8)・No. 175 (1946. 4. 11)・No. 182 (1946. 4. 18), 1946年4月7日に逮捕された数字は次のとおり。馬山15, 鎮海28, 固城10, 巨済46, 咸安10, 昌寧11, 統営7 (同史料 No.175)。
- 109) 『衆報』1946年4月18日。
- 110) 『衆報』1946年4月25日。
- 111) 6師団 G-2, PR, No. 207 (1946. 5. 13).
- 112) 『衆報』1946年4月14日。
- 113) 6師団 G-2, PR, No. 194 (1946. 4. 30)・No. 197 (1946. 5. 3)・No. 195 (1946. 5. 1)
- 114) 『衆報』1946年5月7日。
- 115) 『衆報』1946年5月9日, 晋州ではこれに先立って統一した措置を取った(『衆報』1946年4月2日)。
- 116) 6師団 G-2, PR, No. 235 (1946. 6. 10)・No. 251 (1946. 6. 26).
- 117) 『慶南新聞』, 「馬山遺史 (26)」1986年9月17日。
- 118) この当時の慶南地域におけるコレラ発生状況については次の史料を参照。
USAMGIK 第2巻544頁, U.S. Army, HUSAFIK 第1巻626頁, 『朝鮮人民報』1946年5月7日, 6月4日, 7月5日, 『独立新報』1946年5月25日・31日, 6月4日・11日・12日, 『漢城日報』1946年5月20日・27日。
- 119) 『慶南新聞』, 「馬山遺史 (26)」1986年9月17日。
- 120) 『衆報』1946年7月2日。
- 121) 詳細な内容は『衆報』1946年8月15日付記事参照。
- 122) HQ, 6TH INF DIV incl #1 to G-2, PR, #274 (1946. 7. 19).
- 123) 『衆報』1946年7月4日。
- 124) 『衆報』1946年7月9日。
- 125) 『衆報』1946年7月18日。
- 126) 『衆報』1946年8月11日。
- 127) この争議の展開過程については, 『衆報』1946年8月9日・11日, 9月17日付参照。
- 128) 6師団 G-2, PR, No. 300 (1946. 8. 15).
- 129) 6師団 G-2, PR, No. 315 (1946. 8. 29)・No. 316 (1946. 8. 30), 『衆報』1946年8月25日。
- 130) 『衆報』1946年9月27日。
- 131) 「10月抗争」については, チョンヘグ『10月人民抗争研究』(1988, ヨルウムサ)参照。
- 132) 「9月ゼネスト」の展開過程については, バクチョルギョ「米軍政期釜山地域の大衆運動」を参照。
- 133) 『衆報』1946年7月10日・20日。
- 134) 『慶南新聞』「馬山遺史 (27)」(1986年9月24日)。
- 135) 『独立新報』1946年10月9日, 『漢城日報』1946年10月8日, 建国青年運動協議会編 前掲書419頁, HQ, G-2, PR, No. 348 (1946. 10. 7), HQ, G-2, Weekly Summary, No. 56 (1946. 10. 11).
- 136) 6師団 G-2, PR, No. 353 (1946. 10. 6).
- 137) 6師団 G-2, PR, No. 354 (1946. 10. 7)・No. 356 (1946. 10. 8), HQ, G-2, Weekly Summary, No. 57 (1946. 10. 17)によれば7日の騒擾で暴徒8名が死亡して, 警察2名が重傷, 150余名が拘束されたとなっている。
- 138) 6師団 G-2, PR, No. 365 (1946. 10. 18).
- 139) 『慶南新聞』「馬山遺史 (27)」(1986年9月24日), 馬山の「10月抗争」については新聞, 米軍政資料などの資料ごとに相違があるが, 一致する点のみで再構成した。
- 140) 『漢城日報』1946年10月22日, 6師団 G-2, PR, No. 363 (1946. 10. 16).
- 141) 建国青年運動協議会編前掲書767頁。
- 142) 建国青年運動協議会編前掲書312頁。
- 143) 6師団 G-2, PR, No. 368 (1946. 10. 11).
- 144) 建国青年運動協議会編前掲書757頁, 過渡立法議院慶南道代議員の略歴については, 次の史料を参照。立法議院秘書処『過渡立法議院速記録』, 『釜山日報』1946年12月2日, 『漢城日報』1946年12月8日。